

学校だより



# ひがし

令和元年10月4日発行  
第17号  
伊豆市立修善寺東小学校  
TEL0558-72-0420

◆学校教育目標「よく学ぶたくましく心やさしい東っ子」◆重点目標「一人で挑戦！みんなで挑戦！」

## 全国学力・学習状況調査の結果と考察

4月18日に行った全国学力・学習状況調査の結果と考察をお知らせします。今年度よりA問題（知識）とB問題（活用）が一体化されました。下の表は、全国の平均正答率と本校6年生の結果を比較したものです。この調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組に生かしていくこと」にあります。本校でも全教職員で結果を分析し対策を考えました。各学年の日々の授業に生かすとともに、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫・改善し、学力向上に取り組んでいきます。

平均正答率	国語		算数	
	話す・聞く	書く	読む	言語事項
全国	63.8	66.6		
本校	◎	◎	○	◎

◎：全国+3ポイント以上 ○：0～+2.9ポイント △：0～-2.9ポイント以下 ▲：-3ポイント以下

### 【教科に関する調査の結果と考察】

★本校の平均正答率は、国語、算数とも、全ての領域で全国平均を上回りました。昨年は「解答時間が足りなかった」と答えた子が多く、無解答率も高いことが課題となりましたが、今年度は時間的には余裕があり、無解答率も低かったです。

★国語では、特に「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均と比べてかなり高く、話し手の意図を考えながら聞き、質問したり考えをまとめたりする力が確実に身に付いていることが分かりました。課題が見られたのは、昨年同様「漢字を文の中で正しく使う」



ことです。全14問中、最も正答率が低かったのが漢字を書く問題で、「調査のたいしょう」の正答率は3割に届きませんでした。算数で「図形の対称」を学ぶ時期と重なっていたこともあり、誤答の多くは「対称」でした。また、「かんしんをもってもらいたい」の正答率も低く、「感心」とした子が5割近くいました。漢字の持つ意味を考えながら適切に使えるよう、形式的な漢字練習にとどまらず、漢字に親しめるような工夫をするとともに、日々の生活の中で習った漢字を進んで使う意識を高めていきたいです。また、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことにも課題が見られました。指定された条件に合うように書く場面を増やすなどの工夫をしていきます。

★算数で、正答率が最も低かったのは、「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方について書く」問題でした。また、「 $1800 \div 6$ は何m分の代金を求めている式か」を問う問題も、全国平均を下回りました。「計算の順序についてのきまり」や「式」の意味の理解に課題があります。また、「単位量当たりの大きさを基に求め方を言葉や式を使って書く」問題の正答率も低かったです。文章を読んで問題場面をイメージしたり、式の意味を説明したりすることに課題があります。情報量が多くても一つ一つ筋道を立てて粘り強く考えながら読み進めたり、適切に表現したりする力を伸ばせるよう、他教科とも関連させ繰り返し指導していきます。

## 【児童質問紙調査の結果と考察】

★**学習習慣**（家で計画を立てて勉強をしているか）と**生活習慣**（朝食を毎日食べているか、同じくらいの時刻に寝ているか、同じくらいの時刻に起きているか）については、概ね良好で全国平均とほぼ同じような結果となり、ご家庭と連携しながら進めている「凡事徹底」を基盤にした取組が、一定の成果となって表れていることが分かりました。



★**規範意識**の領域では、「学校のきまりを守っているか」という設問に対する回答が全国平均に比べてきわめて高い結果となりました。「当てはまらない」と答えた子は一人もおらず、規範意識の高さがうかがえました。一方、「いじめはどんな理由があってもいけないことか」や「人の役に立つ人間になりたいか」という設問に対して「当てはまらない」と否定的な回答をした子が見られたのは気になることです。

★**自己有用感**を問う設問「自分にはよいところがあるか」は、全国平均に比べ「当てはまる」と答えた子の割合がかなり低いです。「先生はよいところを認めてくれているか」については半数以上の子が「当てはまる」と答えているのですが、自分の中ではまだなかなか自信がもてないようです。また、「家の人と学校での出来事について話をするか」について



「当てはまる」と答えた子は3割にとどまり、否定的な回答をした子の割合が全国と比べてかなり高い結果でした。「将来の夢や目標を持っているか」についても、「当てはまらない」と回答した子の割合が全国より高かった点が気がかりです。夢や目標をもてるような働き掛けや、周りからのプラスの評価を受け入れ自分のよさを実感できるような取組を継続して行き自信を深めていきたいです。

★5割以上の子が「新聞」をほとんどまたは全く読まないと答えていますが、これは昨年と同様の結果です。全国的にも新聞離れは進んでいるようです。また、地域の行事への参加は昨年同様きわめて高い結果となりましたが、「外国の人や外国のこと」への関心などについては全国平均を下回っています。地域という限られた範囲での与えられた場面では活動できるものの、視野を広げたり自発的に働きかけたりする姿勢には課題が見られます。



★昨年までと傾向が大きく異なったのは、「学習に対する興味・関心等」が全国に比べきわめて低い結果となった点です。教科の学力は全国と比べて高かったのに、「国語の勉強は好きか」「国語の勉強は大切だと思うか」「国語の授業の内容はよく分かるか」「国語の



授業で学習したことは将来役に立つと思うか」などの設問への回答が全国平均よりかなり低いことが分かりました。算数も似た傾向です。勉強が大切だとも役に立つとも思えないなど学ぶことの意味を見いだせずにいる子への支援が必要です。学習への興味関心を高め、意欲をもって主体的に取り組めるような働きかけを工夫していきたいと思ひます。

今年度の結果から見えてきた課題の中で、特に「学習に対する興味・関心」や「自己有用感」を高めることをこれまで以上に大切にしながら今後の教育活動に取り組んでいきます。ご家庭でも、「子どもの話を聞く時間」を意識して作っていただけるとありがたいです。親も子も忙しくて一緒に夕食を食べられなかったり、夕食後も子どもはゲーム、大人は家事と別々の時間を過ごすことが多いのかも知れませんが、しかし、短い時間でも、子どもの話に耳を傾けることで、お家の人に目をかけてもらっていること、大切な存在として認めてもらっていることが伝わり、意欲や自信につながっていくと思ひます。子どもたちの主体性を伸ばし、生きる力を育んでいくために、保護者の皆様の後押しをお願いいたします。